

1 通信教育の概要

1 目 的

本通信教育は、主として知的障害のある人が利用する障害者施設・事業所において知的障害児・者の支援・援助にあたる専門職員の養成を行うことを目的としています。

2 受講資格

受講資格は、次のいずれかに該当することが必要です。

- (1) 学校教育法に基づく大学・短期大学卒業者で、人材育成・研修委員会が定める施設・事業ならびに職種で1年以上その業務に従事した者。
- (2) 学校教育法に基づく専修学校の専門課程【修業年限2年以上のものに限る】(専門学校)卒業者で、人材育成・研修委員会が定める施設・事業ならびに職種で1年以上その業務に従事した者。
- (3) 学校教育法に基づく高等学校卒業者で、人材育成・研修委員会が定める施設・事業ならびに職種で2年以上その業務に従事した者。
- (4) 学校教育法に基づく専修学校の高等課程(高等専修学校)卒業者で、人材育成・研修委員会が定める施設・事業ならびに職種で2年以上その業務に従事した者。
- (5) 本会が実施する「知的障害を理解するための基礎講座」修了者で、人材育成・研修委員会が定める施設・事業ならびに職種で2年以上その業務に従事した者。
- (6) 知的障害援助専門員養成通信教育(平成12年度以降)を受講した者で、未修了の者。

※実務経験については、2026年3月31日現在で定められた年数を満たしていなければなりません。

※人材育成・研修委員会が定める実務経験については、16ページを参照してください。

※非常勤職員は、下記の条件をすべて満たしている場合に実務経験として該当します。

A. 正職員と比べて3/4以上勤務している。 B. 施設長もしくは法人理事長の証明がある者。

3 定 員

450名

4 募集期間

2025年11月1日～2026年2月末日(定員になり次第締め切り)

5 受講期間

2026年4月1日～2027年3月31日

6 受講料(一度納入された受講料は返金できません)

受講料 (上記2.受講資格の(1)～(5)に対応)	会員施設職員	66,000円(本体60,000+税6,000円)
	一 般	69,300円(本体63,000+税6,300円)
再受講料 (上記2.受講資格の(6)に対応)	会員施設職員	52,800円(本体48,000+税4,800円)
	一 般	56,100円(本体51,000+税5,100円)

※受講料には、テキスト代およびスクーリング受講料が含まれます。

※再受講料には、テキスト代は含まれません(スクーリング受講料は含まれます)。

2 受講内容等

1 教科目

- | | |
|-------------------|-----------------|
| ①知的障害者福祉総論 | ⑥知的障害者の医療 |
| ②知的障害者援助技術 | ⑦知的障害者の生活支援 |
| ③事例研究 | ⑧障害福祉事業のマネジメント |
| ④知的障害を伴う自閉症スペクトラム | ⑨知的障害の併存症（重複障害） |
| ⑤知的障害者の心理 | |

2 履修内容

①自宅学習

- ・本講座専用のテキスト（9科目）を用いて学習します。
- ・科目ごとに指定課題に沿ってレポートを作成し、所定の期日までに提出します。
- ・レポートは、1科目につき原稿用紙5枚（1800～2000字）です。
- ・レポートには講師の評価・講評を付して返却します。

※レポート作成の際、GPTs、ChatGPT等の生成AI技術の回答を自身のレポートとして提出することは認めません。

②スクーリング

●スクーリングの内容について

- ・9科目の講義および各教科のテストを実施します。
- ・学識経験者や各分野のスペシャリストが講義を行います。

●実施方法について

- ・インターネットを使用した、オンデマンドによる講義視聴およびオンラインによるテストを実施します。（インターネット接続ができない場合は、通信教育の受講ができません。DVDの用意はありません。）

再受講について

再受講は30～55期の受講生で、修了判定で「未修了」となった方が対象です。

なお、再受講では新たに、全科目の「レポート提出」「スクーリングへの出席」「受験」が必要となります。

再受講料には、テキスト代は含まれません。受講の際は以前に購入されたテキストを使用してください。なお、希望者は最新テキストを1冊あたり1,100円（税込み）で購入することができます。

3 修了判定

レポートの評価、講義動画の視聴およびオンラインテストの成績により総合的にを行います。

修了判定を受けるためには、全科目の「レポート提出」「スクーリング講義動画の視聴」「オンラインテストの受験」が必要です。

■学習計画（予定）

学習期間	学習教科（レポート提出教科）	学習期間	学習教科（レポート提出教科）
4/1～4/10	準備期間（教材到着）	8/11～10/10	⑥知的障害者の医療 ⑦知的障害者の生活支援
4/11～6/10	①知的障害者福祉総論 ②知的障害者援助技術		
6/11～8/10	③事例研究 ④知的障害を伴う 自閉症スペクトラム ⑤知的障害者の心理	10/11～12/10	⑧障害福祉事業のマネジメント ⑨知的障害の併存症（重複障害）

- ・レポートの提出期限は、あらかじめ日程が決まっています。
- ・レポートの評価は、各科目担当講師が行います。

■スクーリング実施予定

●実施期間

2026年12月中旬～2027年1月下旬（予定）

●実施方法

- ・インターネットを使用した、オンデマンドによる講義視聴およびオンラインによるテストを実施します。（インターネット接続ができない場合は、通信教育の受講はできません。講義DVDの用意はありません。）

●実施内容

- ・9科目の講義および各教科のテストを実施します。
- ・学識経験者や各分野のスペシャリストが講義を行います。

●その他

- ・インターネット環境の整備について

講義動画の視聴や、テストを受験する際、パソコン、タブレット、スマートフォンといったインターネットに接続できる機器が必要となります。講義動画の視聴には多くのデータ通信量を消費するため、通信料無制限のプランにする等、インターネット環境を整備されることをお勧めいたします。

※インターネット機器については、パソコンを推奨します。

■56期生講師一覧（予定）

科 目 名	講 師 名
①知的障害者福祉総論	小澤 温（筑波大学） 谷口 泰司（関西福祉大学） 矢野 明宏（東京通信大学）
②知的障害者援助技術	白石 孝之（社会福祉法人彩明会） 鈴木 良（同志社大学） 矢島 雅子（京都ノートルダム女子大学）
③事例研究	漆嶋 真一（社会福祉法人なにわの里） 長澤 正樹（新潟大学名誉教授）
④知的障害を伴う 自閉症スペクトラム	田熊 立（千葉県発達障害者支援センター東葛飾） 中野 伊知郎（社会福祉法人侑愛会）
⑤知的障害者の心理	飯田 昭人（北翔大学） 佐々木 新（川崎医療福祉大学） 福島 寿美子（たすく株式会社）
⑥知的障害者の医療	鴨下 加代（安田女子大学） 土路生 明美（県立広島大学）
⑦知的障害者の生活支援	金丸 博一（コンサルテーションサポート森の入り口） 佐野 和明（社会福祉法人愛育会） 松永 千恵子（群馬医療福祉大学）
⑧障害福祉事業のマネジメント	榎本 則幸（東京通信大学） 鈴木 繁生（社会福祉法人みどりのかぜ） 松下 直弘（社会福祉法人岩崎学園）
⑨知的障害の併存症（重複障害）	池上 陽子（社会福祉法人日本心身障害児協会） 豊田 隆茂（社会福祉法人日本心身障害児協会） 野村 万季（相模原市立陽光園）

（50音順）

修了生からの一言

愛知県／社会福祉法人養楽福祉会 岡田 美咲

6年ほど知的障がい福祉の仕事に携わってきましたが、日々変わる利用者への支援や職員間での統一した支援の難しさを感じながら仕事を行ってきました。その時上司から知的障害援助専門員養成通信教育を勧められました。レポート作成では、通信教育の手引きを熟読し、提出期限に合わせて進めていきました。どのように作成していけばいいのか悩んだ時があり、過去の優秀レポートをホームページで拝見し、参考にしてレポートを完成させました。また、テキストを読み、今まで知らなかったことや忘れかけていた内容を学習することができ、自分に足りない知識を得ることができました。以前から支援に必要な知識を得るための必要な教材について、どのような教材を参考にすればいいのか悩んでいましたが、通信教育テキストを読むことで自分に足りない知識を吸収することができました。

オンデマンド配信によるスクリーング講義は、隙間の時間を見つけ視聴をしました。レポート作成後に視聴するため、テキストで理解ができていなかった部分をスクリーング講義で復習できる構成が私には合っていたと思います。

オンラインテストは、事前に配布された過去問題集を解き、テキストやスクリーング講義の資料を再度確認し挑みました。難しい問題もありましたが、復習することで時間内に終わることができました。

日々の仕事や生活と通信教育の受講、レポート作成を両立させるのは大変な1年でしたが、仕事上では得ることができない多くの知識を得ることができました。学んだ知識は、現場ですぐに活用できるものが多く、支援に取り入れることができました。受講前には考え付かなかった内容だったため、自身の成長を実感することができました。

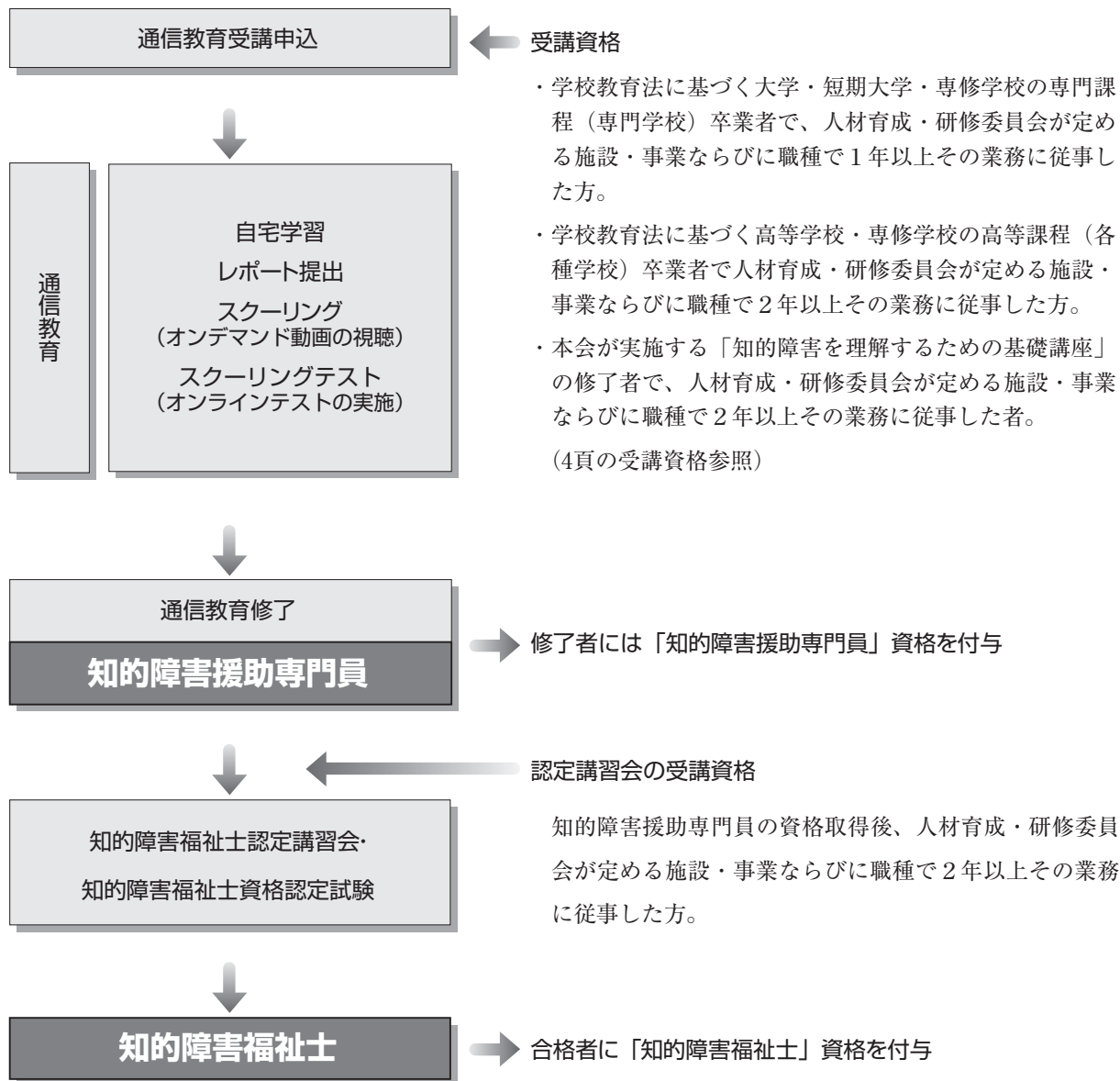
これから受講される皆様は、大変な1年となると思いますが、苦労ばかりではなく新たな知識が学べる貴重な時間だと捉えてみてください。また、全てを終えた時の達成感は計り知れません。心からご健闘をお祈りしています。

(令和7年度通信教育ニュースより)

3 資格の付与について

本通信教育修了者には「知的障害援助専門員」の資格が与えられます。

■資格認定への過程



知的障害援助専門員とは

知的障害のある人が利用する障害者施設・事業所において知的障害児・者の支援・援助にあたる専門職員として本協会が認定する資格。

知的障害福祉士とは

知的障害のある人が利用する障害者施設・事業所において知的障害児・者の支援・援助に係る計画の策定・調整等とともに、支援・援助にあたる職員に対して助言・指導等を行う専門職員として本協会が認定する資格。

4 申込手続き

1 募集期間

2025年11月1日～2026年2月末日（定員になり次第締め切り）

2 提出書類等

①受講申込書（19頁の所定用紙）

②実務経験証明書（21頁の所定用紙）

※再受講の方は提出の必要はありません。

③承諾書（23頁の所定用紙）

④証明写真（縦4cm×横3cm）2枚

⑤受講許可通知返信用封筒（定型郵便サイズの封筒（長形3号）に110円切手を貼り、ご自身の住所・氏名をご記入ください）

3 提出方法

上記①～③の提出書類に必要事項を記入し、④証明写真と⑤受講許可通知返信用封筒（長形3号）を、提出書類送付用封筒（角形2号）に必要送料分の切手を貼付けし郵送ください。

※本会ホームページより受講案内をダウンロードした場合は、「⑤受講許可通知返信用封筒（長形3号）」ならびに「提出書類送付用封筒（角形2号）」はご自身で用意ください。

4 受講の決定

提出書類の審査を行い、受講資格を満たしている方に受講手続き（受講許可証および郵便払込取扱票）のご案内をします。受講料の納付をもって受講の決定となります。

5 提出書類の記入要領

1 受講申込書

- ①受講申込書記入例（12頁・13頁）を参考にして必要事項をもれなく記入してください。氏名の欄に必ず押印してください。
- ②最終学歴は卒業した学校名、学部・学科名、卒業年月まで正確に記入してください。
- ③勤務先欄は現在の勤務先名を記入してください。
- ④施設・事業の種類、および職種は16頁の表を参考にして記入してください。なお、コードは17～18頁コード表を参照のうえ記入してください。

2 実務経験証明書

- ①受講申込時に必要な実務経験を実務経験証明書記入例（14頁・15頁）を参考に、必要事項をもれなく記入してください。
- ②施設（事業）の種類、および職種は16頁の表を参考にして記入してください。
- ③事業所の異動等により、実務経験証明書が複数になる場合には、必要枚数をコピーして記入してください。
- ④実務経験証明書の勤務期間を「見込み」として提出された方は、4月末までに証明書を再度提出していただきます。
- ⑤再受講の方は、実務経験証明書の提出は必要ありません。

3 承諾書

- ①通信教育を受講するにあたり、承諾書（23頁）を提出していただきます。
- ②承諾書の記載内容を確認したうえで、日付・住所・氏名の記入および押印をし、提出してください。

4 受講許可通知返信用封筒

返信用封筒（定型郵便サイズ【長形3号】）に110円切手を貼り、返送先の郵便番号、住所、氏名を記入してください。提出書類を本会ホームページよりダウンロードした場合は、返信用封筒（定型郵便サイズ【長形3号】）はご自身で用意ください。

5 証明写真

縦4cm×横3cmの証明写真を2枚用意してください。（無背景のもの）

- ①1枚は受講申込書の所定の位置に貼付してください。
- ②残りの1枚は裏面に都道府県名・氏名を記入し同封してください。（受講証用）